

黒毛和種雄牛「茨北安」号

みんなで進めよう
茨城農業改革

畜産センター肉用牛研究所

前年度選抜された「北国栄」号に引き続き、「北国 7 の 8」号系統の黒毛和種雄牛を選抜しました。今年度選抜された種雄牛「茨北安（いばきたやす）」号は、脂肪交雑に高い遺伝的能力を持つばかりでなく、枝肉重量、ロース芯面積においても高い遺伝的能力を示しました。

「北国 7 の 8」号と「安福」号の組み合わせという魅力ある血統で、質量ともに高い遺伝的能力を持つ「茨北安」号は、これからの「常陸牛」生産におおいに貢献すると期待されます。



写真 1. 「茨北安」号

1. 「茨北安」号の脂肪交雑の育種価は、父牛の「北国 7 の 8」号を上回りました。

現場後代検定成績 17 頭分及び一般出荷での肥育成績 7 頭分のデータから、育種価を推定しました（平成 17 年 1 月現在）。「茨北安」号の脂肪交雑（BMS）の育種価は、県基準値より +1.799 と優れており、父牛である「北国 7 の 8」号の脂肪交雑育種価である +1.628 を上回っていました。

2. 「茨北安」号の育種価は、枝肉重量やロース芯面積でも優れていました。

「茨北安」号の枝肉重量の育種価は +37.270 kg、ロース芯面積の育種価は +6.229 cm²と優れており、父の「北国 7 の 8」号には及ばなかったものの、同系統で前年度に選抜された「北国栄」号を上回り、その欠点を補うものでした。両種雄牛の持ち味を活かした利用が望まれます。

3. 「茨北安」号は質量兼備で、広く交配が可能です。

脂肪交雑、枝肉重量、ロース芯面積の遺伝的能力が高い「茨北安」号の幅広い利用により、県内黒毛和種の改良が一層進むと期待されます。しかし、「北国栄」号と同様に、「北国 7 の 8」号の娘牛とのきょうだい交配は避けるべきでしょう。また、乳用種への交配による交雑種生産も、「茨北安」号の高い遺伝的能力から、おおいに推奨できます。



写真 2. 供試牛の枝肉（A-5）

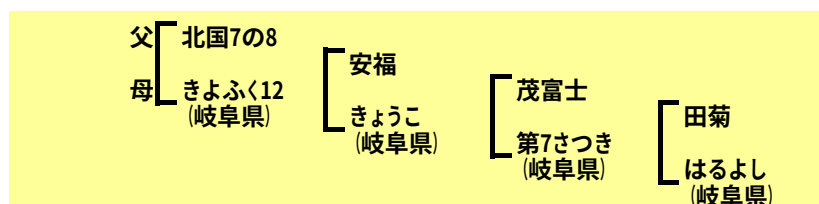


図 1. 「茨北安」号の血統

形質		-3	-2	-1	0	1	2	3	育種価
枝肉重量	少							多	37.270
ロース芯面積	小							大	6.229
ばらの厚さ	薄							厚	0.921
皮下脂肪の厚さ	薄							厚	-0.697
歩留基準値	低							高	1.573
脂肪交雑	少							多	1.799

図 2. 「茨北安」号の推定育種価（シグマ表示）

<問い合わせ先;畜産センター肉用牛研究所改良研究室 電話 0295 (52) 3167>